

AFICAT ニュースレター(日本第7号)

2023年1月10日発行

第7号では、9～10月に実施したアフリカ4カ国の活動等についてお伝えします。ケニアでは農業畜産水産協同組合省(MoALS、現農業畜産開発省)関連機関などと、面談や視察を活発に行って情報収集したほか、コートジボワールでは農家の機械化ニーズの聞き取りや(株)ケツト科学研究所さまのセミナー実施を支援しました。ナイジェリアでもケツトさま、本田技研工業(株)さまの活動支援を行いました。タンザニアでは JICA によって実施された広域研修の様子を共有させていただきます。

ケニア:AFICAT 稼働に向けた情報収集



各機関との協議、視察の様子(左上:KALRO AMRI、右上:ATDC Katumani、左下:MIAD、右下:MRGMの精米所)

前号でお伝えしたとおり、9月に農業畜産水産協同組合省(MoALS、現農業畜産開発省)の農業機械化担当次官と協議した結果、ケニアでもAFICATの稼働が合意されました。今回は9月に実施した現地調査について、詳しくご紹介いたします。

ケニアでは AFICAT に関する現地調査が初めてということもあり、農業畜産水産協同組合省傘下の関連機関や County(郡)政府関係機関、農協組織などを訪問し、ケニアにおけるコメ農業機械化の現状について情報収集したほか、各機関と AFICAT の連携の可能性について協議しました。

首都 Nairobi 近郊の Katumani および国内最大のコ

メ生産地 Mwea 灌漑地区では、MoALS 傘下の農業研究機関であるケニア農業畜産研究機関(KALRO)の Mwea 支所、全国に10カ所設置され農機等の開発や普及を担う農業技術開発センター(ATDC)、KALRO に属し Katumani で農機の研究開発を行う農業機械化研究所(KALRO AMRI)を訪問し、農業機械化の現状や課題などについて協議しました。また、Mwea 地域の灌漑施設整備、灌漑サービスの提供等を担う Mwea 灌漑農業開発センター(MIAD)や、農民団体である Mwea コメ生産者多目的農協(MRGM)等も視察しました。

ケニア西部に位置し、ヴィクトリア湖近くに位置する穀倉地帯 Kisumu も訪問し、County 傘下で農業機械化サービスを提供する農業機械化サービス(AMS)や、Ahero 灌漑地区の開発を担っている国家灌漑局(NIA)、Bunyala 地域の農協等を訪問しました。

農家との意見交換では、ここ数年で周辺地域にコンバインハーベスターが導入され収穫の機械化が急速に進み、農作業の効率化に大きく貢献したといった声も聞かれ、今後更なる農業機械化、それによる農業生産性、効率性やコメ品質向上が期待されます。



各機関との協議の様子(左上:AMS Ahero、右上:NIA Ahero、左・右下:Bunyalaの農協組合員と所有するコンバインハーベスター)

AFICAT 運営チームは今後も上記で訪問した各機関と連携の可能性を探り、本邦農機の普及に向けた取り組みを実施して参ります。



(株)HAKKI AFRICA さまのご紹介

ケニアで事業を展開される(株)HAKKI AFRICA さま(以下、HAKKI)を Nairobi で取材させて頂きました。HAKKI は 2018 年よりケニアにおいて、独自に開発した信用(クレジット)スコアリングシステムを使い、今まで融資申請に必要な情報が不足しているために銀行などから融資を受けられなかったタクシードライバーを対象に、事業用の車両を購入するための中古車ファイナンスを提供しています。

現在は、アフリカへ農機輸出事業を行う KiliMOL さま、唐沢農機さまと業務提携を行い、農家のファイナンスへのアクセスを改善し、ケニアを始めとしたアフリカへ農機販売から、農家による農機購入に係るファイナンス支援まで実施し農機普及を促進していくことを目指されています。AFICAT では、今後も活動内容をフォローさせて頂き、ニュースレターなどで情報を発信していきたいと思っております。



(株)HAKKI AFRICA 創業者の小林さま(左)、時田さま(右)

<https://hakki-africa.com/>

HAKKI さまウェブサイト

コートジボワール： カカオ・カシュー農家を訪問

ケニアの活動と並行して、9月から10月にかけてコートジボワールで2回目の現地活動を行いました。今回は2つのトピックについてご報告します。



カカオ、カシューナッツ農家と栽培地の様子

9月下旬に Yamoussoukro の南西に位置する Zambakro 地域のカカオ農家とカシューナッツ農家(合計9名)を訪問し、農作業にかかる機械化ニーズなどを聞き取りました。それぞれの農家から出た意見は以下のとおりで、ほぼ共通していました。

●機械化ニーズ

- ・カカオ農家: 背負い式動力噴霧器、チェーンソー、灌漑ポンプ、果実を割る機械、収穫機、草刈り機。
- ・カシューナッツ農家: 背負い式動力噴霧器、チェーンソー、灌漑ポンプ、収穫機、草刈り機。

●機械化したい理由

- ・背負い式動力噴霧機: 農薬を散布する際に、手動式だと圧力が足りず、拡散しない、高所まで薬剤が届かないことがあるため、動力式の機械を使用したい。
- ・チェーンソー: 枝、枯木の剪定を楽に行いたい。
- ・灌漑ポンプ: 灌漑水が来ておらず、雨水に頼っているため、灌漑ポンプを使用し、安定して水を供給したい。
- ・収穫機(カカオポッド): 果実が高所にある場合、道具(長い棒の先に刃物のようなもの)を着けたものを使って収穫しているが、作業が大変なため、もっと楽に収穫できる機械、もしくは道具があれば手に入りたい。
- ・収穫機(カシューナッツ): 地面に落ちている果実を収穫することが大変なため。
- ・草刈り機: 効率的に草刈りを行いたい。

(※機械化のニーズではないですが、薬剤が体にか



からないための防護服や、丈夫な長靴も必要という意見も多く聞かれました。)

上記の機械化ニーズの中で、カカオ、カシューナッツどちらの農家も、最も欲しい機械は背負式動力噴霧機ということでした。カカオ農家の一人へ背負式動力噴霧機に関する聞き取りをしたところ、作業する際は、CFA2,000(USD3.2)/日で機械を借りてきているとのことですが、借り手が多く、自分が作業したいタイミングで借りられないこともあり作業が遅れてしまうこともあるため機械の購入も検討したようですが、市場で見た際にCFA300,000(USD480)/台であったため、購入を断念したそうです。この農家へ収入事情を質問したところ、保有面積は 1.5ha、収量は 500kg/ha/年、販売価格 CFA825(USD1.32)/kg で、年間の収入はCFA618,750(USD990)/年でした。ここから生活費、栽培に係る必要経費を捻出しており、手元にはお金がほとんど残らず、機械を買って作業を効率的に行いたい、買うためのまとまったお金がないため、やむを得ず機械を借りてきているそうです。

上段で述べた背負式動力噴霧機がいくらであれば購入できるか聞いたところ、各農家からCFA100,000(USD160)、CFA50,000(USD80)、CFA200,000(USD320)などの回答があり、ある程度のお金を払ってでも機械を手に入れて、効率的に作業を行い、耕うん作業に時間を使ってカカオの栽培面積を拡大して収入を増やしたいという農家もいました。作業の機械化を進めたいが、元手となるお金がないという、アフリカ各国で共通した問題があり、彼らにとって機械化を進める上で、機械の性能や耐久性も重要ですが、やはり機械の価格や収入の向上が重要だということがわかりました。(CFA 1= USD 0.0016 で計算)



(左)病気になって枯れたカシューナッツ、(右)カカオ

コートジボワール：(株)ケツト科学研究所さま オンラインセミナー

10月4日に、(株)ケツト科学研究所(以下、ケツト)の製品紹介と穀物水分管理の重要性を伝えることを目的



としたオンラインセミナーをコートジボワールで開催しました。これまで同様のセミナーをタンザニア、ナイジェリア、ガーナでも実施しており、今回で4カ国目となります。当日は国家農業農村開発省(MEMINADER)やコメセクター開発機構(ADERIZ)などの政府機関、そして民間精米業者などから約30名が参加しました。参加者からは「他国製の穀物水分計と比較したケツト製品の精度の高さに驚いた」、「セミナーの内容は国内の規格・標準機関や研究機関とも共有すべきだ」といった好意的な意見が聞かれました。

これに続いて12月には、後述するナイジェリアと同様に、コートジボワールでも実機を用いたデモのための2回目のセミナーを開催しました。その内容は次号でご報告します。今後は、ケツトの現地代理店である CIMOTORS社を通じた販促支援を展開していく予定です。



ADERIZの会議室でオンラインセミナーを運営するAFICAT運営チーム、MEMINADER、及びADERIZの担当者の様子

コートジボワール：PRORIL2による 本邦農機を用いた収穫後処理研修

10月11、12、17日の3日間、JICA国産米振興プロジェクトフェーズ2(PRORIL2)の主催で、現地のコメ生産者(11日)や精米業者(12、17日)を対象とする収穫後処理の技術研修が行われました。研修中には関連する本邦農機のデモも行われ、PRORIL2の古市専門家より(株)ホクエツさまの唐箕(穀物選別機)や、ヤマアグリ(株)さまの小型コンバインや投込み式脱穀機、(株)サタケさまの色彩選別機(第5号で紹介)、ケツトの水分計などが紹介されました。コートジボワールではこのようにJICAプロジェクトの活動を通じて本邦農機の魅力が現地の農業関係者に伝えられています。以下に参加者の反応の一部を紹介します。



「地元の脱穀作業請負サービスの値段が高いため、脱穀機がほしい」(コメ生産者組合)

「今は手作業で耕しているの、耕うん機がほしい」(コメ生産者組合)

「夾雑物の選別や石抜きは通常女性の手作業で行われるが、機械を使えば効率を向上させることができる」(精米業者)

「選別機、乾燥機、重量計を自分の精米所に備え付けたい」(精米業者)

このように機械を導入するニーズはほぼすべての生産者・精米業者が持っていますが、一方で価格面・資金不足の懸念が多く聞かれました。



(株)ホクエツの唐箕 SK トーミ



ヤンマーアグリ(株)の脱穀機 DB-1000

ナイジェリア: (株)ケツト科学研究所さま 実機を使ったセミナー

前述したコートジボワールに続き、AFICAT 運営チームによるアレンジのもと、ケツトによる実機を用いたオンラインによるデモを含むセミナーがナイジェリアで10月21日に実施されました。当日はAFICATの協力機関であるナイジェリア連邦農業農村開発省(FMARD)のアグリビジネス・マーケティング開発局(ABM)に加え、国立農業機械化センター(NCAM)、国立穀物研究所(NCRI)、各州の農業省、そして精米業者から計14名の参加がありました。



Zoom で日本側ケツト社員と参加者をつないだセミナーの様子

他国で実施した時と同様に、水分管理の重要性等についての講義の後、水分計、白度計、テスト用粉摺り機等を実際に用い、遠隔からのケツト社員による指導を受けながら実習が行われました。参加者はケツトの製品に関心を示しつつ、ナイジェリアで普及しているパーボイル米に水分計を用いるタイミングや方法等について質問を投げかけました。

AFICAT 運営チームでは、このような形で本邦企業さまによるセミナー実施のためのアレンジ等も承っております。ご関心をお持ちの場合は、ぜひ本ニュースレター末尾の連絡先までお問合せください。

ナイジェリア: 本田技研工業(株)さま 関係機関との協働

ニュースレター日本第3号(2022年7月29日発行)で記載をしたとおり、本田技研工業(株)さま(以下、Honda)とNasarawa州農業省との間で連携についての協議が進められてきました。この度HondaよりNasarawa州農業省へ耕うん機が一定期間無償貸与され、農家グループへの貸出やHondaによる操作方法やメンテナンス指導等が行われることが合意されました。実際に耕うん機を使用した農家のフィードバック等は、今後Hondaの販売促進等の活動計画等に活用される予定です。

タンザニア: 広域研修で AFICAT を紹介

タンザニアでJICAが実施中の「タンザニア国コメ振興及び普及・研修システム強化に向けた情報収集・確認調査」(通称、TANRICE2.5)では、今後、実施が予定されている技術協力プロジェクトを円滑に実施するため、事前の情報収集と試行的な研修を実施することになっています。10月24日から29日には、ウガンダ、ケニア、マラウィ、ザンビア、ルワンダの政府関係者が招へいされ、AFICATの活動拠点にもなっている



キリマンジャロ農業研修センター(KATC)で、稲作技術に関する研修が実施されました。AFICAT チームも時間をもらい、AFICAT のコンセプトを紹介すると同時に、AFICAT に関する意見交換を行いました。現地の農地や状況に適した技術を推進すること、機械化を進める上で農家のニーズを満たし、手頃な価格で農家にインパクトを与えるような技術が必要なこと、バリューチェーンを全てカバーすべきなど、活発な意見交換を行いました。



アフリカ 5 カ国の政府関係者が KATC に招へいされ、稲作研修を受講し、アクションプランを作成しました。

今後、タンザニアで実施が予定されている技術協力プロジェクトにおいても、KATC を中心に今回のような近隣国の政府関係者を招へいした広域研修が実施される予定になっています。AFICAT もそのような動きに連動し、本邦企業が有する製品や技術を紹介できると良いと思います。

編集後記

今年の3月から開始した AFICAT の現地活動は、タンザニア、ナイジェリア、ガーナ、コートジボワール、ケニアの5カ国で、着実にその活動の幅を拡げてきています。今後も本邦企業のみなさまの更なる現地進出支援、および各国の農業機械化、農業振興に向けて、活動を進めて参ります。

新たに AFICAT をご活用いただける本邦企業の方を、随時募集しております。AFICAT にご関心がある方は、お気軽に以下の連絡先にお問い合わせください。

編集・問合せ
株式会社 かいほつマネジメント・コンサルティング
狩野・弓削田・魚住
Tel: 03-5791-5083 Mail: aficat.team@kmcinc.co.jp

AFICAT HP:
<https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/aficat/>

[index.html](#)

※ニュースレターの新規登録・登録解除をご希望の方は上記の宛先までお名前、所属先、メールアドレスをご連絡ください。

※[AFICAT のご活用に関するお問い合わせ](#)も、上記の宛先までご連絡下さい。